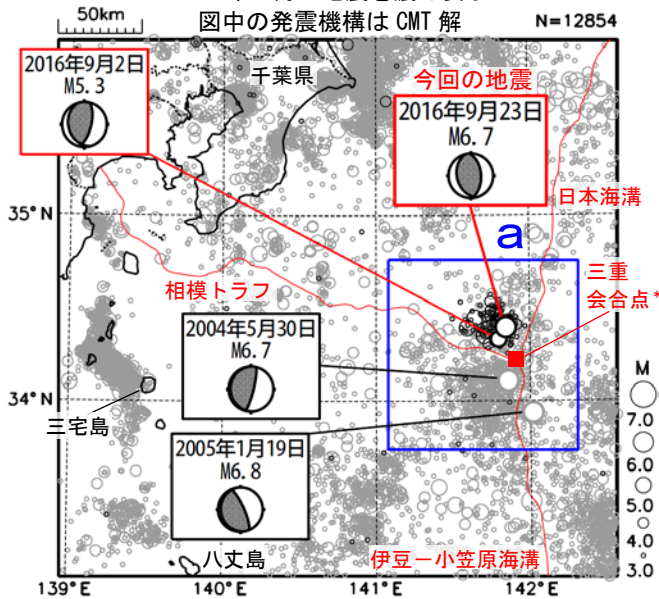


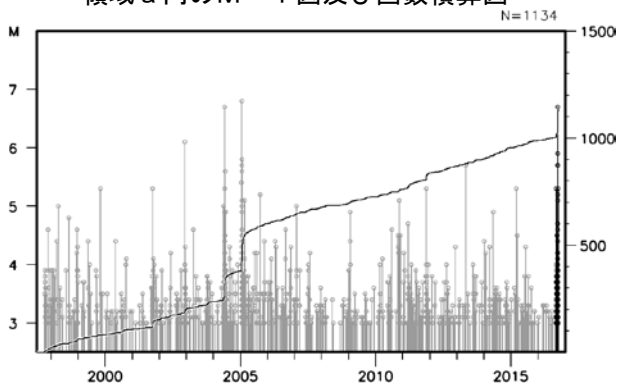
9月23日 関東東方沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2016年9月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$)
2016年9月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解



領域a内のM-T図及び回数積算図

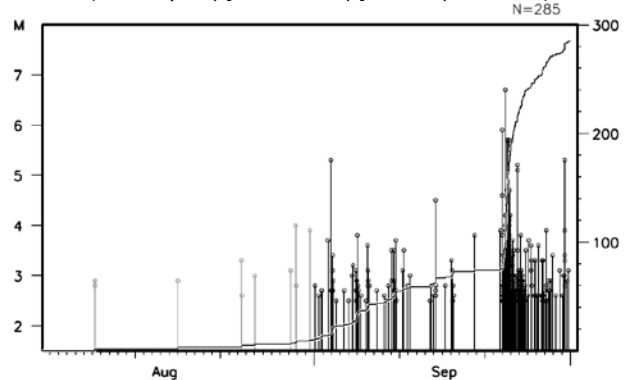


2016年9月23日09時14分に関東東方沖(プレート三重会合点*付近)の深さ15km(CMT解による)でM6.7の地震(最大震度1)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震により、八丈島八重根の巨大津波観測計(観測単位は0.1m)で高さ0.2mの津波を観測した。今回の地震の震央周辺(領域a)では、9月になってから地震活動が活発になっていて、9月2日にはM5.3の地震が発生している。この地震を含め、9月30日までにM5.0以上の地震が9回発生した。

1997年10月以降の活動をみると、領域a内では、M6.0以上の地震が時々発生している。このうち、2005年1月19日に発生したM6.8の地震(最大震度1)では、三宅島坪田で高さ39cmの津波を観測した。

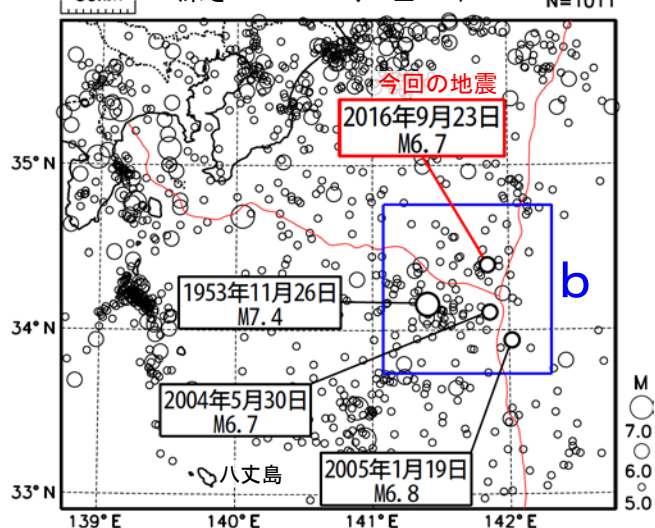
領域a内のM-T図及び回数積算図

(2016年8月1日～9月30日、 $M \geq 2.5$)



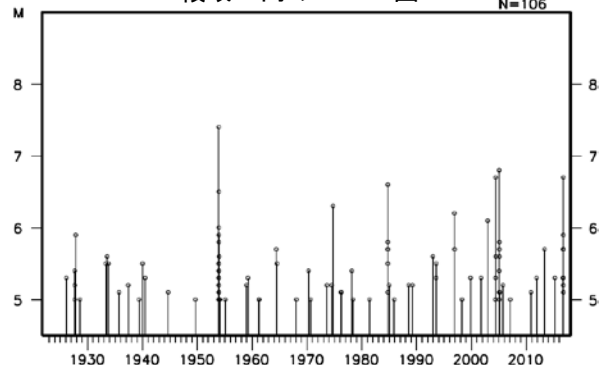
震央分布図

(1923年1月1日～2016年9月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が時々発生している。このうち1953年11月26日に発生したM7.4の地震(最大震度5)では、八丈島八重根で高さ150cmの津波が観測されたほか、北海道地方から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波が観測された。

領域b内のM-T図



*三重会合点：三つのプレートが一点で接する場所。房総半島の南東約150km沖では、日本海溝、伊豆-小笠原海溝、相模トラフが交わる海溝-海溝-海溝型の三重点がある。